

スポーツ山形



(財) 山形県体育協会

第63回国民体育大会冬季大会

男女総合成績 16位 (88点)

●スケート・アイスホッケー競技会 男女総合18位 (44.5点)

●スキー競技 男女総合7位 (43.5点)

(写真提供：山形新聞社)



スピードスケートW杯インツェル大会 優勝 加藤条治(日本電産サンキョー)



第63回冬季国体 距離成年女子B 5 kmクラシカル 準優勝 青木富美子



バスケットボール女子最優秀選手 大神雄子(JOMO)

スポーツ界を振り返って



財団法人山形県体育協会
常務理事 神尾 芳昭

スピードスケート競技の加藤条治選手が二月のワールドカップ優勝をはじめ、その後の世界レベルでの活躍から完全復活が何れ、嬉しい限りである。また、バスケットボールの大神雄子選手が、Wリーグで最優秀選手に選ばれるとともに、世界最高峰リーグのアメリカWNBAへ挑戦することになった。本県出身の選手が世界の舞台で活躍することは、県民の大きな誇りであり、県内のアスリートの目標となり、県民あげて応援したいものである。

秋田県での本国体では、ボクシング等の個人競技の大会が開かれたものの、残念ながら前年度より総合順位を下げる結果となった。

反面、本県で開催された全中大会や、高校生の各種大会での活躍は素晴らしく、とりわけ谷地高力選手の全国高校・国体での四冠、新体操の庄司七瀬選手のインターハイ三連覇、北京オリンピック出場権確保の原動力となった三沢樹知選手は、まさに本県の一貫指導の結果であり、更なる精進と大舞台での飛躍を大いに期待したいものである。

冬季長野国体では、スケートは高校生の活躍、スキーでは青木富美子選手の準優勝をはじめベテラン勢の奮闘に拍手を送るとともに、若手の育成が課題となつて残った。

また、生涯スポーツ振興方策の一つとして、「総合型地域スポーツクラブ」の設置を進めている。ライフスタイルの多様化や健康問題等からのスポーツニーズへの対応策として、この事業は有効であり、今後、未設置市町村の解消やクラブ育成に力点を置いた指導を行っていききたい。

来年度は山形県において、大分国体のブロンズ予選となる東北総体が行われ、また、オリンピックの年でもある。一つでも多くの競技が国体への出場権を確保することを望むとともに、より多くの本県トップアスリートがオリンピックの舞台で活躍することを心から祈念する。

第63回国民体育大会冬季大会成績

◆冬季国体スキー、スケート県勢の入賞者

順位	競技名	種別	種目	選手名	所属	タイム
2位	スキー	成年女子B	5キロクラシカル	青木富美子	真室川高校	16分23秒4
3位	スキー	成年男子C	アルペン・大回転	伊東 秀朗	ぼくのうち	1分7秒58
	スケート	少年男子	Sスケート・1,000メートル	堂下 貴章	山形中央高	タイムなし
	スケート	少年男子	Sスケート・10,000メートル	森永 一帆	山形中央高	タイムなし
4位	スキー	成年B	ジャンプ	坂野 幸夫	雪印	184.5点
	スキー	成年女子B	アルペン・大回転	野木 真実	蔵王クラブ	1分7秒80
	スケート	少年男子	Sスケート・1,500メートル	堂下 貴章	山形中央高	タイムなし
5位	スキー		距離・女子リレー（5キロ×4）	県選抜 須藤 千郁 佐田 聡子 青木富美子 斎藤 友理		1時間6分19秒9
	スケート	少年男子	Sスケート・5,000メートル	中野 秀基	山形中央高	タイムなし
6位	スケート	少年男子	Sスケート・500メートル	大江 高広	山形中央高	39秒01
7位	スキー	少年女子	アルペン・大回転	加藤 稚子	山形中央高	1分6秒66
	スキー	成年A	ジャンプ	佐々木悠兵	日本空調サービス	195.0点
8位	スケート	少年男子	Sスケート・5,000メートル	森永 一帆	山形中央高	タイムなし



大回転成年男子C 第3位 伊東秀朗



スピードスケート少年男子
第3位 堂下貴章（写真右）



スピードスケート少年男子10,000m
第3位 森永一帆

冬季国体においては、前回の反省として、「得点を獲得する選手が固定化している」「後に続く世代の強化策が急務である」を挙げ、一年間強化に取り組んだが解決には至らず、同じ課題を残すこととなった。早期に短・中・長期の強化策を構築し、着実な前進を望むところである。また、今大会は、経費削減の中、開催決定が一年前という状況の中で、開・閉会式の簡素化が図られた大会であり、今後の大会のあり方への問題提起の開催であったと思われる。

長野県で開催された第六十三回国体冬季大会（スケート・アイスホッケー、スキー競技）に山形県を代表して出場した選手の素晴らしい活躍に敬意を表し、喝采をもって称えたいと思います。

しかしながら、全体の成績は男女総合成績十六位で昨年の十三位から三順位下げ、得点は八八点で昨年の一〇〇点より十二点下げる残念な結果であった。前回同様優勝もゼロである。その中であって、確実に入賞を果たすクロスカントリーの青木選手、アルペンの伊藤選手、ジャンプの坂野選手等の頑張りには、後に続く選手の手本であると考え。

第六十三回国民体育大会
「冬季大会」を終えて

人物紹介

生涯スポーツの実践

山形マスタース陸上競技連盟

会長 田崎 元一



八十歳を迎えて初のシーズンとなった二〇〇七年、イタリアで開かれた「世界マスタース陸上競技選手権大会」に六年ぶりに出場、M80（八十〜八十四歳）の部の三〇〇メートルハードルに六十三秒三三の日本新記録で優勝。八〇メートルハードルと一、六〇メートルリレーでも銀メダルを獲得。その他、「日本マスタース」や「国際ゴールドマスタース」でも、それぞれ二種目で優勝。

子どもの頃から学校対抗のリレーの選手になるなど走るのが好きだったが、青春時代は戦争と共に過ぎ去り、本格的に陸上を始めたのは戦後二十四歳の時、山形市役所陸上部に入ってからである。その後、国体に七年連続出場し、四〇〇メートルハードルでは県記録を達成、三十二歳で現役を退いた。

五十六歳でマスタース陸上に現役復帰、マスタース陸上を始めて二十五年、年と共に衰えはあるものの、陸上仲間からは「年の取り方を知らないのではないか」と驚かされている。昨今は漬物石をバーベル代わりにウエイトトレーニング。雪の積もった冬は長靴で田んぼを走り込み、足首やものの強化に努めている。

「規則正しい生活で、体を動かすのは健康で長生きをするため」をモットーに生涯スポーツ、生涯健康を目指し、努力しているこの頃である。

公認スポーツ指導者ノート

指導と役職の両立を図って

（財）日卓協ルール審判委員会委員

日体協B級スポーツ指導員 鈴木 幹太



高校を卒業して二年目から母校中学校のコーチを始めた。自営業とはいえ学校との連絡はスムーズにはいかないこともあったが、顧問や保護者会の支えで苦労よりも感謝の気持ちの方が大きかった。

西村山地区中体連では河北中の壁が厚く、どうしても突破できなかった。そこで中学生になってから始める指導に限界を感じ、ジュニアクラブの結成を図った。卓球連盟の仲間を動かし、小・中・高・一般の一貫性の中で体力、仲間づくり、人間形成の育成と技術の向上を目指した。

このような活動の中で、公認スポーツ指導者研修会のことを知り挑戦した結果、昭和五十七年に公認指導員の資格を得ることができた。その後、各種大会での活動が認められ、平成四年のべに花国体では競技役員部長、日本卓球協会ルール審判委員会委員を委嘱された。同六年には国際審判員資格を得、九年には世界卓球選手権大会（英国、マンチエスター）の日本代表審判を務めた。それと国民体育大会や全国大会の審判を毎年任されている。

ジュニアクラブから巣立った子供達が県高校総体団体戦で三年連続優勝、加えてダブルス、シングルスでも優勝。その後も国体や全日本選手権への出場と活躍しており、嬉しい限りである。

現在はラージボールの会も結成され、生涯スポーツとして地域に根づいている。

殊勲賞・奨励賞



殊勲賞

種目	氏名	所属	主な成績
水泳	土岐 健一	日本大学	1年 第83回日本選手権水泳競技大会 男子1500m自由形 優勝
水球	山形水球クラブ		第30回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 水球競技B区分 (15歳以下男子) 優勝
	曲山 紫乃	日本体育大学	2年 2007 水球女子ワールドリーグ アジア太平洋州ラウンド 第3位
	長沼 敦	県水泳連盟	2007 水球男子ワールドリーグ アジア太平洋州ラウンド 第3位
	矢作 美香	県水泳連盟	2007 水球女子ワールドリーグ アジア太平洋州ラウンド 第3位
セーリング	佐藤 駿	鶴岡市立温海中学校	3年 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会ミニホッパー級 優勝
	阿部 七海	酒田市立第四中学校	2年 第5回全国中学校ヨット選手権大会OP級女子の部 優勝
カヌー	山形県立谷地高等学校カヌー部		平成19年度全国高等学校総合体育大会 カヌー競技 男子カヤックフォア 500m・200m 優勝
			第62回国民体育大会 カヌー競技少年男子カヤックフォア 500m・200m 優勝
	竹屋美紀子	県立谷地高校教諭	2007 ICF カヌーフラットウォーターレーシングワールドカップ 第2戦女子カヤックペア 500m・1000m 第3位他
	松田 淳司	(財)山形県体育協会	第12回アジアカヌーフラットウォーターレーシング選手権大会 男子カヤックシングル 1000m 準決勝進出 出場
ボウリング	山本学園高等学校ボウリング部		文部科学大臣杯争奪第14回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会 男子 優勝
陸上	五十嵐理沙	上山市立北中学校	3年 第38回ジュニアオリンピック陸上競技大会女子A100m 優勝
	高橋 優香	県立上山明新館高校	1年 第62回国民体育大会 陸上競技 少年女子B 200m 優勝
	石山真紀子	私立山形城北高校	3年 第15回日・韓・中ジュニア交流競技会 陸上競技 女子 1500m 準優勝
ホッケー	須貝 善郎	天理大学	3年 第26回全日本大学王座決定戦 優勝他
	市川 司	天理大学	2年 第26回全日本大学王座決定戦 優勝他
	川崎 愛	東海学院大学	2年 第26回全日本大学王座決定戦 優勝
	小関 佳奈	東海学院大学	4年 第26回全日本大学王座決定戦 優勝
バレーボール	多治見麻子	パイオニア レッドウィングス	第14回バレーボールアジアシニア女子選手権大会 優勝
	庄司 夕起	パイオニア レッドウィングス	第14回バレーボールアジアシニア女子選手権大会 優勝
	栗原 恵	パイオニア レッドウィングス	第14回バレーボールアジアシニア女子選手権大会 優勝
	高橋 美帆	パイオニア レッドウィングス	2007 世界ジュニア女子バレーボール選手権大会 (U20) 第3位
新体操	庄司 七瀬	県立山形北高校	3年 平成19年度全国高等学校総合体育大会 新体操競技女子個人 総合・ロープ 優勝
	三澤 樹知	県立山形北高校	3年 第28回世界新体操選手権大会 女子団体 総合 第4位他
バスケットボール	山形市立第六中学校男子バスケットボール部		平成19年度全国中学校体育大会バスケットボール競技 優勝
レスリング	尾形 翼	日本体育大学	2年 2007 アジア・ジュニアレスリング選手権大会 男子グレコローマン 55kg級 第5位
自転車	村上 純平	鹿屋体育大学	4年 第76回全日本アマチュア自転車競技選手権大会ロード・レース (U23) 141km 優勝
軟式野球	羽黒高等学校軟式野球部		第62回国民体育大会 高等学校野球 軟式 優勝

平成十九年度 ス.ポーツ功労者 (後期)

◆県体育協会功労賞 (市町村体協・競技団体推薦)

和田 多聞 (河北町) 武田 英一 (山辺町)
長岡 茂樹 (山辺町) 横山 勲 (金山町)
矢口 良行 (水泳) 佐藤 完司 (バレーボール)
伊藤 秀二 (バレーボール) 猪狩 光正 (テニス)
木村 由利子 (ソフトニス) 黒坂 浩一 (卓球)
工平 貴夫 (野球) 佐藤 重孝 (ソフトボール)
渋谷 忠雄 (バドミントン) 鹿野 昭男 (バドミントン)
伊藤 祐紀 (剣道) 宇野 靖介 (バタック)

◆県体育協会功労賞 (ライオンズスポーツ賞)

岡崎 昭博 (上山市) 鈴木 憲一 (上山市)
木村 文浩 (カヌー) 高岡 邦子 (カヌー)

◆県体育協会感謝状 (競技団体推薦)

庄司 三春 (ハンドテニス)

◆日本スポーツ少年団顕彰

◎感謝状 故竹田 忠晃 (川西町)
大河原 實 (米沢市)
大渡 朝生 (米沢市)

◆山形県スポーツ少年団表彰

◎功労者

鈴木 義則 (山形市) 加藤 芳雄 (上山市)
渡辺 将二 (寒河江市) 千葉 徹 (東根市)
村上 進 (新庄市) 猪狩 文昭 (川西町)
安部 行雄 (長井市) 我孫子 廣 (鶴岡市)
岡部 裕司 (鶴岡市) 相馬 春夫 (酒田市)

◎優良団

西小けやきミバスケットボールスポーツ少年団 (山形市)
洗心館高橋柔道スポーツ少年団 (天童市)
河北FCサッカースポーツ少年団 (河北町)
楯岡サッカースポーツ少年団 (村山市)
ミックスビッキーズスポーツ少年団 (新庄市)
犬川地区マラソンスポーツ少年団 (川西町)
鮎貝野球スポーツ少年団 (白鷹町)
朝日サッカースポーツ少年団 (鶴岡市)
大山バドミントンスポーツ少年団 (鶴岡市)
峰栄ミバスケットボールスポーツ少年団 (鶴岡市)

平成19年度 山形県体育協会

種 目	氏 名	所 属	主 な 成 績
フェンシング	原田めぐみ	(財)山形県体育協会	2007 フェンシング世界選手権大会 女子エペ 個人・団体 出 場 他
柔 道	渡部 紘子	県立山形中央高校 3 年	平成19年度全国高等学校総合体育大会 柔道競技女子個人 78kg超級 優 勝
	村井加緒里	仙台大学 4 年	第23回全日本学生柔道体重別選手権大会 女子57kg級 優 勝
剣 道	志藤 綾子	朝日町立朝日中学校 3 年	平成19年度全国中学校体育大会 剣道競技女子個人 優 勝
	村山 仁	県立酒田商業高校 3 年	平成19年度全国高等学校総合体育大会 剣道競技男子個人 優 勝
ラグビーフットボール	横山 伸一	拓殖大学 4 年	サファリセブンズ 第 3 位
	横山 健一	拓殖大学 3 年	サファリセブンズ 第 3 位
トランポリン	富樫 真雪	南陽市立赤湯小学校 6 年	第17回世界年齢別トランポリン競技選手権大会 出 場 ダブルミニトランポリン 11～12歳女子の部
	井上 七海	南陽市立赤湯中学校 1 年	第17回世界年齢別トランポリン競技選手権大会 出 場 ダブルミニトランポリン 11～12歳女子の部

奨 励 賞

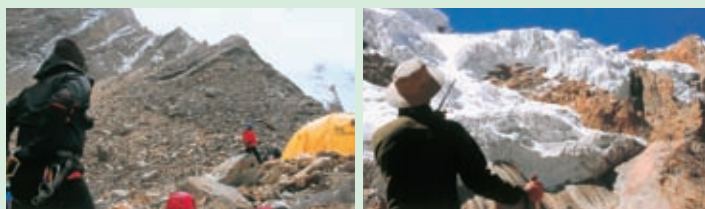
種 目	氏 名	所 属	主 な 成 績
陸 上	田崎 元一	山形陸上競技協会	第17回世界マスターズ陸上競技選手権大会 300mハードル 優勝(日本新) 80mハードル 準優勝 4×400mリレー 準優勝他
	加藤 啓一	山形陸上競技協会	第28回全日本マスターズ陸上競技選手権大会 M60 2000m障害 優 勝
	原田 勇夫	山形陸上競技協会	第28回全日本マスターズ陸上競技選手権大会 M95 砲丸投・M95 円盤投 優 勝
	鹿野 光正	山形陸上競技協会	第28回全日本マスターズ陸上競技選手権大会 M70 80mハードル 優 勝
	御供 妙子	山形陸上競技協会	第17回世界マスターズ陸上競技選手権大会 W70 重量投 16位(日本新) 出 場 他
鉢 道	斎藤 元文	鶴岡市立大山小学校 6 年	第29回全国少年少女鉢道優勝大会 小学生実戦競技の部 優 勝
	山形県Aチーム		第29回全国少年少女鉢道優勝大会 少年少女団体展開競技の部 優 勝
	佐藤 祐歩	酒田市立第四中学校 3 年	第29回全国少年少女鉢道優勝大会 少女上階法形競技の部 優 勝
	佐藤 薫	鶴岡市立鶴岡第五中学校 2 年	第29回全国少年少女鉢道優勝大会 少年上階競技の部 優 勝
	山形県Aチーム		第29回全国少年少女鉢道優勝大会 少年少女団体法形競技の部 優 勝
バウンドテニス	高山 浩	県バウンドテニス協会	第25回全日本バウンドテニス選手権大会 シニア男子シングルス 優 勝



チベットの聖山ヤラシャンポ初登頂

山形県山岳連盟

山形県山岳連盟は、五十周年記念事業として海外登山を企画し、平成十三年ヤラシャンポに挑戦したが、連日の降雪と雷の襲来に悩まされ途中で断念せざるを得なかった。その後も、中国登山協会との連絡を保ち、コースや気象状況などの研究を進めてきた。今年派遣した登山隊も、風化したもうい岩峰を越えなければならぬなど、予想をはるかに超える多くの困難があった。ルート工作に時間を要し、頂上アタックのチャンスは一回だけ。そのチャンスを生かし十月十六日六時二十一分初登頂を遂げた。登山隊員全員の不屈の決意で成し遂げられた初登頂であり、県民に大きな感動を与えた。これまで長期にわたり、山形の四季の登山活動を通し、楽しみ鍛えてきた登山技術や体力が海外の未踏峰にも通じることが証明された。県山岳連盟は今後とも登山愛好者が一丸となって、さらなる挑戦に取り組み、県民の皆様が夢を感じてもらえる活動を続けていきたいと考えている。



県空手道連盟が東北初の受賞

日本武道館と武道九団体で構成する日本武道協議会の二〇〇七年度表彰式で、各武道競技から一団体のみが受賞される優良団体に、山形県空手道連盟が選ばれた。東北の空手道団体では初の栄誉である。同連盟は、一九六五年に発足。空手道競技では日本体育協会に唯一加盟する全日本空手道連盟の傘下団体として、国体をはじめ各種大会に数多くの選手を送り、優秀な成績を収めてきた。

北海道から関東までの小中学生を対象にした「樹水杯ジュニア選手権」をおとしから開催し、選手の強化や底辺拡大に尽力。今年三月までの五年間、飛鳥会長が全日本空手道連盟東北地区協議会の議長としてリーダーシップを発揮してきたことなどの功績も認められ、今回の受賞につながった。

—写真山形新聞社提供・記事同新聞社抜粋—

市民総スポーツの実現に向けて

(財)新庄市体育協会

会長 齋藤

敏

本協会は本年十二月、創立六十周年の節目を迎える。昭和二十三年以来、体育振興の総合的な組織づくりを目指し、着実に会員増大と運営体制の整備を図ってきた。

昭和五十九年、県内唯一のサイクルスポーツセンターが(財)山形県体育協会から移管されることに伴って法人化され、これを契機に市民総スポーツの普及と競技スポーツの振興を柱に諸事業を推進してきた。

構成は、競技団体二十三、関係団体、関係機関合わせて二十七の加盟団体で、近年の厳しい社会環境とスポーツ環境の変化に柔軟に対応すべく、活発な議論を交わしながら諸課題に取り組んでいる。

主な活動として、これまで総合型地域スポーツクラブへの支援はじめ、競技団体への強化費並びに全国大会出場選手への激励金の交付、市総合体育大会の開催、体育功労者等の顕彰、「スポーツ・運動アカルト」の発行事業等々を実施してきた。

今後の課題は、スポーツへの多様なニーズに応えるため、いかに指導者の育成と活用を図っていくか、特に中高年の生活習慣病の一次予防対策として、運動指導の必要性を高めながら、スポーツに親しむ動機付けの場を提供していくことが重要と考えている。

それには、行政の保健機関はじめ関係団体等との横断的連携を強化し、さらなる健康スポーツの普及に努めていかなければならない。

また、当地区の若い力が全国レベルを視野に入れた積極的なスポーツ交流を図り、若者に夢と希望を与え、そして感動を享受できるスポーツの振興と環境整備に尽くしていく必要がある。これからも、「市民の宝」となるべき健康とスポーツに新たな視点で取り組み、当地域の中核的スポーツ団体として、スポーツを通じた地域の活性化と活力あるまちづくりに積極的に貢献していきたいと考えている。



山形県ゴルフ連盟

山形県ゴルフ連盟

事務局長 佐藤

一郎

山形県ゴルフ連盟は、昭和五十二年に設立し、国民生涯スポーツである、ゴルフの普及に努めてまいりました。

現在の加盟倶楽部は、十三倶楽部で年間県内での延べプレーヤーは、二八五、〇〇〇人で毎年少しずつ減少気味で、各倶楽部とも厳しい営業状況です。

生涯スポーツとしてのゴルフを振興させるには、ジュニアの育成と高齢者(シニア)とレディースの参加の機会と、ファミリーで楽しくプレーが出来る環境作りが必要です。

そこで、平成十九年度よりサーキット競技会(第一戦から第五戦)に、一般の部の他にシニアの部、グランドシニアの部、レディースの部を新たに設け高齢者や女性が参加しやすいようにし、第五戦までの各クラス毎のグラウンドチャンピオンから第三位までを表彰することになりました。

ジュニアの育成については、年二回ジュニアゴルフ教室を無料で開催し、参加者も、小学生、中学生、高校生の初心者を対象に実施していますが、好評で参加者も延べで一三〇名程の状況です。また、ジュニアゴルフ大会も実施し、ジュニアのレベルアップにも力を入れている現状です。

今後は、国民体育大会に向けて全国に通用する技術の向上に努めて参ります。県民スポーツ、そして生涯スポーツゴルフの発展に努めてまいりますので、会員皆様のご支援とご協力をお願い致します。



クラブ信

地域に根ざした確実なクラブをめざして

西根ときめきスポーツクラブ
会長 蒲 生 護

西根ときめきスポーツクラブは、平成十七、十八年の二年間の準備期間をへて、平成十九年二月に設立して間もないクラブです。

母体は一、〇〇〇戸あまりの地区内全戸からの協力金、三〇万円の運営資金と、単なるスポーツの好きな集団で昭和五十五年に西根体育協会を組織して二十年以上やってきた団体です。

クラブ設立後、会員を募りスタートして一年目は、新規教室等の事業計画は半分も消化する事が出来ず、二年目に入り一人、二人とクラブを理解してくれる方も出てきています。

コースとして、ジュニア育成コース、一般コース、エンジョイコース（各世代を対象とした、ゲートボール、ペタンク、スポーツ民謡等）などの教室があります。また、イベント事業として全地区民や全会員を対象としたゴルフ大会、インディアカ大会等を開催しています。「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」をキーワードに子供から高齢者まで、生涯にわたって楽しめる「健全な体と地域づくり」を目指しています。

総合型地域スポーツクラブの理解度はまだまだですが、県内の連絡協議会も誕生した事でもあり、アスリートを育てるスポーツと共に「文化もスポーツ」と考えを拡大して、生涯「スポーツ社会」実現を目指したいものです。亀の如くあせらず、急がず、ゆつくりと確実に進もうと、県内、他県の優秀なクラブの講演の中から、まねは出来ないがヒントを戴きながらやっていくつもりです。

スポーツ技術員ノート

「心・技・体」

スポーツ技術員 森 哲 平
(スピードスケート)



私は今年度より山形県体育協会のスポーツ技術員としてスピードスケート競技をしている森哲平です。宜しくお願いします。

活動の拠点は山形市で山形中央高校スケート部の生徒と顧問の椿先生指導のもと練習しています。

そのほかには全国各地で合宿を行い他の実業団チームの方々と練習しています。これは日本でもトップレベルの練習をお互い刺激しながら行えるメリットがあります。

目標は二年後のバンクーバーオリンピックに出場し日本の代表として世界で活躍したいと思っています。

そのためには、何をするべきか日々考えながら練習、生活しています。スポーツの世界ではよく「心・技・体」という言葉が使われますが、そこでも最初に来ている「心」は重要だと僕は思っています。

素晴らしい「技」、素晴らしい「体」を持つにしてもそれを動かしているのは「心」だからです。ここぞという時に強い心が必要なのもスポーツです。

そして人としての「心」も大切だと思っています。素晴らしいアスリートでも態度や言動が横暴だったりするので心がないと思うからです。

いまはたくさんの方のお陰でスピードスケートという競技をすることができています。

そのことに感謝していますし、それが私自身のやる気にもなっています。

今できる恩返しは競技で結果を出すことです。

そのために今は全力を注いでいるところです。

応援よろしくお願ひします。



火災保険会社
 あいおい損害 共栄火災 損保ジャパン 大同火災 東京海上日
 日 火 災 ニッセイ火災損害 日本興亜損害 富士火災 三井住友海
 保険については東京海上日動を幹事会社として、上記損害保険会社10社との共同保険となっております
 (2015年10月1日現在)